

認識パターンは、(コマンド、格、オブジェクト、属性)の組み合わせデータで表現されることを記述してきました。しかし、これを手作業で作るのはしんどいことです。機械学習でパターンを作っていきたい。人工知能が生活しながら成長していく・・・そんなスキームが必須です。

実際、(コマンド、格、オブジェクト、属性)の形式ですと、機械学習は図面解析結果を保存するだけになります。ただ、強化学習といいますか、共通するパターンコマンドは強化し、ばらけるパターンコマンドは捨てる・・・というようなデータマイニング機構は必要になります。猫と犬の違いは「キティちゃん」は口がないことからわかるように、猫は口とか鼻は小さく、犬はその反対に大きいという特徴から判断されます。そんな特徴を検出する機構は作りこまねばなりません。(コマンド、格、オブジェクト、属性)の形式・・・テキスト形式ですと、テキストマイニングの技術を応用することが真っ先に考えられます。

信濃プロジェクトでは「秋葉」で実現する予定ですが、そもそもそこまでたどり着けるかどうか。図面認識をモチーフにして、画像認識「若葉」と重み付投票法(ベイジアンネットワーク)「瑞葉」と思考システム「青葉」をなんとしても実現していきたいですね。まずは、機械学習は若葉が動くだけの機能を作りこんで行くということで、信濃プロジェクトも若葉に集中していくつもりです。

おわり